
友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2023 August No.16



第40回研修バス旅行・青山文庫の前にて（2ページに関連記事）

CONTENTS

第40回研修バス旅行

牧野博士のふるさと土佐を訪ねて 2

新設された案内板

シーボルト門人石坂桑亀墓所 3

資料館細見

友の会の思い出の写真を募集しています

友の会創立40周年記念祝賀会のご案内

植栽ボランティア活動参加者募集 4

薬草の小径から⑬

牧野富太郎と親交のあった津山ゆかりの学者

編集後記

第40回研修バス旅行

牧野博士のふるさと土佐を訪ねて

会員 矢内 州子

五月晴れのお天気に恵まれた5月27日、会員が待ちに待った「友の会バス旅行」が4年ぶりに開催されました。参加者45名を乗せて、午前7時城東観光駐車場を高知に向けて出発しました。高知道に入ると、様々な場所牧野博士のぼり旗が満面笑顔で迎えてくれます。NHKの朝ドラ「らんまん」の主人公、博士の恋し



牧野植物園からの風景



牧野ふるさと館での見学の様子

た花の物語が見られると思うと、ワクワク感が止まりません。

五台山の高台に植物園があり、バス1台がやつと通れる急な細いつづら折りの山道を、運転手さんは切り返すことなく登っていきます。左右の雑木林の木々には名札がかかり、博士が「名前の無い草木は一つもない」と言っていた通り、日頃何気なく見ている木や草の名前を知りたくなりました。植物園の入り口に、仙台で採取した新種の笹に「スエコザサ」と初恋の奥様の「壽衛」の名前から命名した笹が青々と茂り、博士直筆の歌碑が二つ建てられています。園内は植物の多さと膨大な標本に圧倒されます。博士は画家にもなれるほどの絵の才能があり、正確な描写と植物に恋をされただけあって、絵に添えられた文章から、植物への愛情が垣間見えました。

昼食は高知市内、はりまや橋から数分の「土佐の國二十四万石」。歴史ある建物でいただく本格的郷土料理は、「土佐と言えは鯉のたたき」。たたきで巻いた寿司、四万十川のおおさのり、チャンバラ貝など初めての食感のおいしいこと。そのあと、佐川町へ移動して、青山文庫と牧野ふるさと館の見学。青山文庫では、学芸員の藤田有紀さんから、開催中の博士の特別展をご案内いただきました。博士の生家を復元したふるさと館では、裕福な幼少期が想像できます。牧野少年の植物学の基礎となった金峰神社は、長い石段の上であり、駆け上った元気な人もいました。次回訪れる時には、必ず境内まで行ってみたいものです。

このような、盛りだくさんで、今最も輝いているホットな話題の場所に行くことが出来て、満喫した一日でした。

見学コース

- ①高知県立牧野植物園（高知市）
- ⇒②昼食
土佐の國 二十四万石
（高知市）
- ⇒③青山文庫（佐川町）
〈牧野博士特別展観覧〉
- ⇒④牧野ふるさと館（佐川町）
〈復元生家〉

新設された案内板 シーボルト門人石坂桑亀墓所

あの有名なシーボルトの門人で、岡山市北区建部町建部上に墓所のある石坂桑亀（墓石では「石阪」）墓所の案内板が、この春岡山市によって整備されています。

これまで、この墓所を訪ねても「結局場所が分からなかった！」という声をよく耳にしていました。

それは、地元の人でさえ桑亀のことを知らず、また案内板さえ設置されてなかったのが致し方ありません。さて、案内板完成を記念する講演会が3月4日、建部町文化センターで開催され、津山洋学資料館名誉館長下山純正さんが「フォン・シーボルト門人石坂桑亀と、その義子堅壯」と



案内板（右）と墓所（石垣の上）



墓所入口の表示

題して講演されています。

案内板の制作にあたっては、津山洋学資料館が解説文を監修されたそうですが、なかなかスッキリしたデザインになっていませんね。

福渡から国道53号線を南下し、旭川にかかる大宮橋を渡って市立建部小学校前の交差点を右折、しばらく進むと「コーヒーショップ・サニーデイ珈琲」付近までくると、この案内板が見えてきますよ。

資料館細見 ～「不連続統一体」の外観～



資料館の外観は、木にレンガに焼杉板とバラバラで色も違いますが、全体を見渡すと違和感なく調和しています。これは「不連続統一体」という考え方によるものです。「個々がバラバラでありながら、それぞれが全体を形成して分かちがたいモノ」を指します。設計された富田玲子さんの師で、箕作家の系譜に連なる建築家・吉阪隆正が提唱しました。この見方立てば、資料館が存在する城東地区も「不連続統一体」そのものですね。

**友の会の思い出の写真を
募集しています!!**

友の会事務局では、会員の皆さまから、友の会行事やそれに関わる思い出のお写真を募集します。文章（2～300字程度）を添えて、事務局までお送りください。友の会通信にてご紹介いたします。皆さまのご応募をお待ちしています。

友の会創立40周年記念 祝賀会のご案内

コロナ禍で延期していた創立40周年記念祝賀会を11月4日（土）にザ・シロヤマテラス津山別邸で開催します。会員の皆さまには、後日詳しいご案内を送付します。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。



創立35周年記念祝賀会の様子
（旧津山国際ホテルにて）

植栽ボランティア活動 参加者募集

10月28日(土)に洋学資料館の菓草の小径などの植栽整備を行います。午後1時30分から1時間程度を予定しています。ご都合がつく方は、是非ご参加ください。小雨決行、草刈り・草取り・剪定などに必要な道具は各自でお持ちください。



薬草の小径から ⑬

ミソハギ

ミソハギ科

開花期は7-9月で、盆花として知られています。地上部を乾燥させたものを生薬名「千屈菜(せんくつさい)」といい、下痢止め、急性腸炎などに民間薬として用いられます。



牧野富太郎と親交のあった 津山ゆかりの学者

牧野の自叙伝や随筆集には、津山ゆかりの学者が次々と登場します。前号で紹介の宇田川榕菴と『植学啓原』のことも出てきますが、今回は他の学者たちをご紹介します。

○菊池大麓と箕作佳吉

数学者の菊池大麓(1855~1917)と海洋動物学者の箕作佳吉(1857~1909)。ともに阮甫の孫で兄弟の彼らは、いずれも東京帝国大学の理科大学長(いまの東京大学理学部長)を務めています。彼らが学長の時、牧野は学内の植物学教授と対立してい



菊池大麓

ました。一人は矢田部良吉で、明治23年に牧野の植物学教室への出入りを禁じた翌年、矢田部は罷免されます。随筆集には、学長の菊池との権力争いによるとあり、自叙伝には大麓を「私の同情者」と書いています。

もう一人の対立者は松村任三で、助手の牧野を追い出そうとしていました。自叙伝には、内情をよく知る学長の佳吉は、松村の企みに乗らなかつたが、



箕作佳吉

学長が替わった時、ついに罷免されたこと、そして佳吉への感謝の念を「作」の名を献名したことが触れられています。大麓も佳吉も、牧野の経歴より実績と能力を評価して、その肩を持つたのでしよう。

○川村清一

津山市上之町出身の学者「川村三兄弟」の長兄に当たる川村清一(1881~1946)は、俗に「キノコ博士」と呼ばれる菌類研究の大家です。彼の死に際して牧野は、川村の大学在学中から親しかったと回想し、その業績を高く評価して、日本でも数少ない菌学者を失ったのはまことに遺憾と、随筆集でその死を惜しんでいます。



川村清一

者者失ったのはまことに遺憾と、随筆集でその死を惜しんでいます。

※出典は次の2冊です。書店店頭になくても、注文すればすぐ入荷します。
『牧野富太郎自叙伝』講談社学術文庫
・随筆集『草木とともに』牧野富太郎
自伝』角川ソフィア文庫

編集後記

待ちに待った「研修バス旅行」が、4年振りに実施できて何よりでした。今回はNHK朝ドラ「らんまん」の主人公、牧野富太郎関連の施設や史跡を巡る高知への旅。楽しくて充実した研修になったことでしょう。

箕作家の方々も朝ドラをご覧になっているようで、「美作教授(実は箕作佳吉)の髭は佳吉と似せているもの、背が低すぎ」とのご意見あり。

また、ネット上では「美作教授の物言いが偉そう」などと、いわれのない中傷コメント。脚本家さん!少しは配慮してよ。

それにしても本号は牧野富太郎一色ではないか!と深く反省しています。「友の会通信16号」をお届けします。

(S)

津山洋学資料館友の会通信

第16号

令和5年8月

編集・発行

津山洋学資料館友の会事務局

〒708-0833

津山市西新町5

津山洋学資料館内

☎ 0868-23-3324

yougaku@city.tsuyama.lg.jp